

最終更新日： 2024年3月6日

授業科目名 (講義題目)	知識マネジメント			開講学期	後期
				曜日時限	月曜 I 限
				単位数	2
担当教員名	永田 晃也	講義コード	科目区分	対象学生	
		24176101	選択	1年生 / 2年生	
開講予定日	①10/7 ②10/21 ③10/28 ④11/11 ⑤11/18 ⑥11/25 ⑦11/27 ⑧12/2 ⑨12/9 ⑩12/16 ⑪12/23 ⑫12/25 ⑬1/7 ⑭1/20 ⑮1/27				
履修条件	特になし	キーワード	組織的知識創造、SECIモデル、ナレッジ・マネジメント、知識資産、実践共同体		
全体の教育目標	知識を経営資源として創造、活用、蓄積するための戦略の枠組みを習得する。	個別の学習目業	各回の講義において取り上げるコンセプトを、具体的な事例に則して理解する。		

授業の概要	<p>本講義は、技術を組織的な知識として捉え直す視点から、その経営資源としての特質を理解するとともに、知識の創造、活用および蓄積に関する経営戦略の枠組みを習得することを目的とする。</p> <p>資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、組織を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱されている。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を指向する「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及してきた。</p> <p>本講義では、上記の理論と経営手法を包括的に取り上げ、両者の関連における問題点に言及する。その際、ナレッジ・マネジメントの表層的な流行現象に追随することなく、その背後にある経営課題の本質と、実践的な解決の指針を探索する。</p>		
授業の最新情報 案内方法	・九州大学Moodle		
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習</li> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>	使用する教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト（紙媒体）</li> <li>・スライド資料（電子媒体）</li> <li>・板書</li> </ul>
授業の進め方	講義とケース討論を中心とする。また、課題として任意の組織を取り上げ、その組織におけるナレッジ・マネジメントの導入に関する提案書を作成する。提案書の内容については、レポートとして提出するとともに、第13回～第15回の間にはプレゼンテーションを行うこととする。		

<p><b>教科書及び 参考図書</b></p>	<p>◎受講前に受講者が入手する必要がある資料 なし</p> <p>○受講開始後に必要となる可能性がある資料 必読論文、ケース教材を配布する。</p> <p>●知識を広げるために読んだ方がよい資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野中郁次郎、竹内弘高（梅本勝博訳）『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年（2,000円＋税）</li> <li>・ T. H. Davenport and L. Prusak, Working Knowledge, Harvard, 1998（梅本勝博訳『ワーキング・ナレッジ』生産性出版、2000年）（2,800円＋税）</li> <li>・ 杉山公造、永田晃也、下嶋篤、梅本勝博、橋本敬編著『ナレッジサイエンス（改訂増補版）』近代科学社、2008年（2,500円＋税）</li> <li>・ 野中郁次郎、泉田裕彦、永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年（2,800円＋税）</li> <li>・ S. Fuller, Knowledge Management Foundations, Butterworth-Heinemann, 2002（永田晃也他訳『ナレッジマネジメントの思想』新曜社、2009年）（4,200円＋税）</li> </ul>
<p><b>試験・成績 評価の方法等</b></p>	<p>ディスカッションへの貢献度、ケース分析シートの完成度および課題に関するレポートとプレゼンテーションの評価による。詳細は授業中に通知する。</p>